

# ごみステーション集約の検討について

## 《現状と課題》

- ・人口が減少する中でごみステーションが増加している。
  - ・ごみステーション数増加により、作業効率が低下。
- ⇒収集作業の負担増などにより作業員として若年層が定着しない。  
**将来的にごみ収集が続けられなくなる可能性**がある。

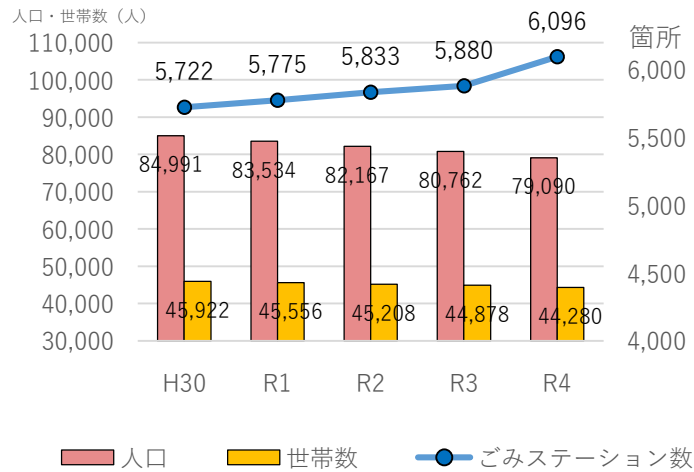
持続可能な収集体制を構築するために…

**ごみステーションの集約等により収集を効率化し、  
 収集作業の負担軽減を図る必要がある。**

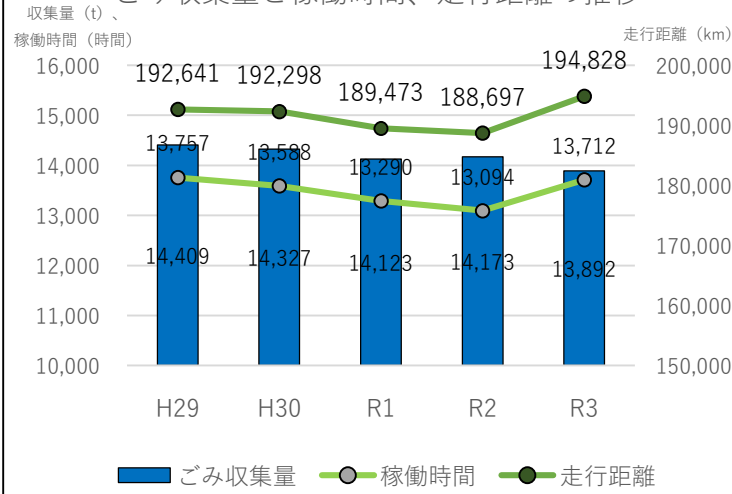
収集作業員へのヒアリング

- ・ST（※ごみステーションの略）が多いことで、ごみ箱の蓋の開け閉めなどが負担になっている。
- ・STが多いと助手が走って収集するため、助手の負担になっているし、車で移動するより時間もかかる。
- ・大きなSTでは、運転手と助手で積み込むため効率が良い。
- ・STが集約されている地域とされていない地域では、作業時間に差が出る。
- ・STが多いとストップアンドゴーが頻繁になり、車両にも負担がかかる。

人口・世帯数とごみステーション数の推移



ごみ収集量と稼働時間、走行距離の推移



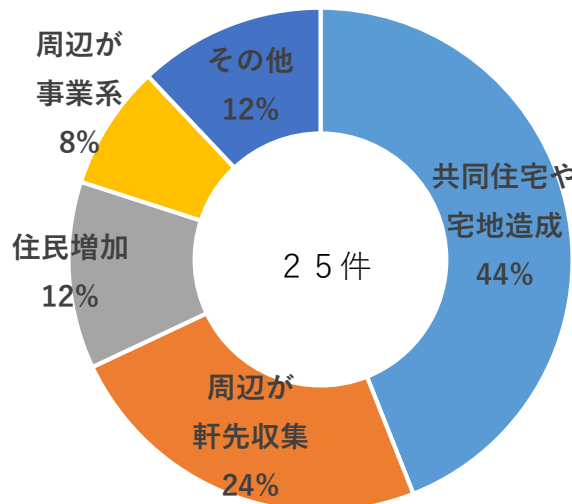
## 《集約検討スケジュール案》



### ★ごみステーション数増加の主な要因

- ①共同住宅の新築や開発行為  
→アパートやマンションの新設時に設置
- ②周辺に利用できるごみステーションがない  
→軒先収集が多い地域に引越してきた場合に設置  
→事業系収集が多い地域に引越してきた場合に設置
- ③局所的な住民増加による容量不足  
→局所的な人口増加等による排出量増の場合に設置

令和4年度新設届出件数



令和4年12月末現在

# (参考) 他自治体のごみ出し支援事例

## 1. 直接支援型

### 委託事業者によるごみ出し支援

(千葉県 我孫子市)

市が委託した事業者が、利用世帯の玄関先からごみを回収する支援策。

#### 取組の立ち上げ経緯

市議会にてごみ出しが困難な高齢者の問題が取り上げられたことを受け、65歳以上の市民にアンケートを実施し「ごみ出し支援があれば利用を希望する」という回答が多く得られたため、検討委員会にて内容を検討し、支援を開始した。

#### 利用条件

①または②に該当する者で、ごみ集積所までの排出が困難で他に協力を得られないと認められること。①要支援もしくは要介護と認定または同程度の状態と認められる者、②1人暮らしの障がい者または障がい者のみで構成される世帯。

条件を満たす利用者は申請を行い、市職員が訪問調査を実施し支援可否を判断する。(徒歩で買い物や通院が可能な場合は支援不可と判断している。)

#### 支援内容

専用の収集袋(152円/枚)にごみを入れて、通常のごみ収集日に玄関先に出す。委託事業者は朝8時30分より、利用世帯を回りごみを収集していく。

#### 実績と効果

平成29年1月時点で200世帯が、平成15年の支援開始から累積で788世帯が利用。利用者の住み慣れた地域で安心して暮らせる環境作りに繋がっていると考えられている。

#### 取組にかかる経費

委託実績値は、平成27年度は8,424千円、平成28年度は7,002千円であった。

## 2. コミュニティ支援型

### 地域団体への支援金交付による共助

(新潟県 新潟市)

ごみ出し支援を行う地域団体に支援金を交付し、地域の共助を支える。

#### 取組の立ち上げ経緯

ごみ袋の有料化に伴い、袋の作成経費等を超えた手数料収入の使い道について市民アンケートを実施し「高齢者・障がい者世帯に対するごみ出し支援」を要望する回答が多く寄せられたため、審議会での議論を経て支援を開始した。市民と協働した地域づくりに取り組んでいるため、行政による直接支援ではなく「地域力」を活かした制度設計としている。

#### 利用条件

ごみ出しが困難な世帯のみを条件としており、市は利用希望者が居住する地域の登録団体(町会や老人クラブ、PTAなど)に繋ぎ、支援可否は登録団体で判断する。登録団体のない地域や登録団体では人手が不足し対応が困難な場合は、シルバー人材センターや社会福祉協議会の家事支援制度を紹介する。

#### 支援内容

登録団体のボランティアが、収集日の朝にごみや資源物は玄関先から集積所まで、粗大ごみは家屋から玄関先まで排出する。

#### 実績と効果

平成29年8月時点で565世帯が支援を受けており、185団体、546人の協力員が支援を行っている。利用者、登録団体、協力員のいずれも支援開始以来増加している。

#### 取組にかかる経費

平成28年度の予算額は5,900千円となっている。ごみや資源は150円/回、粗大ごみは600円/回として昨年度実績から予算額を積算している。

(参考-平成27年度実績) ごみや資源 39,253回×150円 = 5,887,950円  
粗大ごみ 20回×600円 = 12,000円 合計 5,899,950円

## 3. その他

### 介護ヘルパーによるごみ出し支援

(東京都 日野市)

介護ヘルパーや介助者がいつでもごみ出しをできる仕組みづくり。

#### 取組の立ち上げ経緯

日野市では平成12年に「ごみ改革」を実施し全件戸別収集としたが、指定日にごみを出せない高齢世帯などへの配慮も必要との議論があり、その対策として導入された。

#### 利用条件

「寝たきり、または歩行機能に障がいがあり自身でごみを排出場所まで運べないため、介助者等が指定日以外にごみを出さざるを得ない世帯」を対象としている。支援可否は、本人やケアマネージャー、介護ヘルパーなどへの聞き取りから判断している。

#### 支援内容

利用者に対して、住居が共同住宅の場合はシールを、戸建ての場合は容器を主に提供し、シールの貼られたごみや容器には、指定日以外でもごみを出すことができる。これにより、指定日にごみを出し難い世帯を支援している。

#### 実績と効果

平成21年度からの累計で600件(年間100件程度)の利用申請がある。介助者は指定日以外のごみ出しができるようになり、近隣住民とのトラブル回避にも繋がっているとも考えられる。

#### 取組にかかる経費

容器は2~3,000円/台、シールも経費の高むものではない。

## 4. 地域コミュニティ型

### 団地自治会による生活支援

(茨城県 つくば市森の里団地)

自治会による、地域ボランティアとしての高齢者生活支援。ごみ出し支援や、簡単な器具の修理や交換を行っている。

#### 取組の立ち上げ経緯

自治会の交流会で高齢者支援の必要性が話題となり、公募会員や民生委員を交えて行政や社会福祉協議会ではカバーしきれない高齢者支援として、①日常生活支援、②買物支援、③生きがい型活動支援 を洗い出し、実行可能な支援方策を検討、日常生活支援の具体策としてごみ出し支援を行う「高齢者支援隊」が結成された。

#### 利用条件

自治会に加入している75歳以上もしくは、身体が不自由な人のみの世帯が対象。当初は65歳以上を対象としていたが、支援する側の方が高齢となる事例や、利用世帯内に健康な配偶者がいるなどの事例があり、現在の条件となった。

#### 支援内容

利用者は事前に利用券を購入し、自治会に作業依頼申込書を提出する。利用者は自治会と調整した指定日時に玄関先にごみを出し、支援隊員がごみを集積所まで運ぶ。作業完了後は利用者から利用券を受け取り、申込書に署名をもらい自治会へ報告する。

#### 実績と効果

平成24年の開始以降、平成29年8月までに6世帯の利用実績があり現在は1世帯が利用している。今は元気な高齢者が多いが、いずれは支援が必要な高齢者が増加すると見込まれ、支援制度を整えることが住民の安心した暮らしに繋がると考えている。

#### 取組にかかる経費

利用券は1枚100円または11枚綴り1,000円で販売され、ごみ出しは利用券1枚で6回依頼できる。支援隊員には基本作業1単位3時間2,000円の謝金が設定されており、ごみ出し支援の場合は18回分に相当し、6回支援する毎に670円が自治会から支給される。少額であっても有料とした方が気兼ねなく利用してもらえると考えている。